

令和元年度熊本県高等学校現社・倫理・政経合同巡検研修会 ～熊本の戦争遺産の保存活用と平和の大切さについて考える～

1 / 18 版

[日 時] 令和2(2019)年2月14日(金)

8時30分～9時30分頃

[場 所] 大江渡鹿地区旧陸軍施設・熊本学園大学

1 熊本の戦争遺跡の概要

- (1) 戦争遺跡・遺産とは 戦争遺跡から戦争遺産へ 明治以降昭和期 十五年戦争期
狭義では、近代化遺産「政治・軍事」分野 旧日本領
- (2) 熊本の戦争遺跡「七大特徴」
熊本県内の太平洋戦争期の戦争遺跡総数は、多数の特殊地下壕等「723件」※当会調査
- ①軍都熊本市の軍事施設 ～熊本城から東部の大江・渡鹿地区への軍施設の移転～
 - ②九州で三番目に多い陸海軍飛行場 ～本土決戦に向け、地下にもぐった飛行場施設～
 - ③東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所 ～軍直営で石炭を原料とした黄色火薬の生産～
 - ④三菱重工業熊本航空機製作所と学校・地下工場 ～陸軍四式重爆撃機「飛龍」の生産～
 - ⑤本土決戦のための天草地区の砲台、震洋等の特攻艇基地と人吉地区の地下工場・地下壕群
 - ⑥県内各地に残る空襲・戦災の「被害の歴史」
 - ⑦朝鮮人や中国人、連合軍軍俘虜労働の「加害の歴史」

2 大江渡鹿地区の戦争遺跡

- (1) 「旧歩兵第十三聯隊正門」跡
KK T・JR所有地 看板は旧遺族会設置 旧軍用道路から平和の「産業道路」へ
- (2) 「皇威無窮」碑
第六師団の外征記念碑 十五年戦争期の遺産
- (3) 「旧歩兵十三聯隊食堂・酒保所」跡 現熊本学園大学第二体育館
軍都熊本を象徴する唯一の建物 約90年間利用の変遷 平成28年熊本地震被災後の「自助修復」 学園大学生の近代化遺産(戦争遺産)への認識 学園大学「平和学」



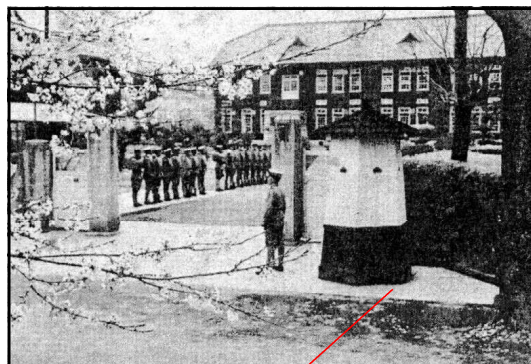
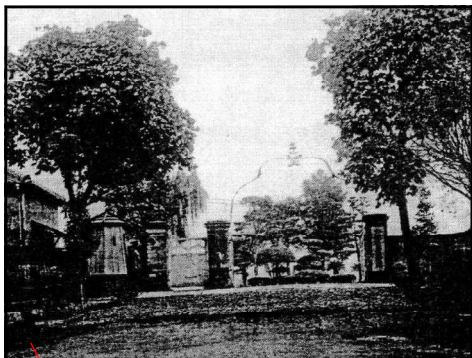
3 参考資料・啓発リーフレット類

『熊本の戦争遺跡』熊本の戦争遺跡研究会 2010 創想社
『くまもと戦争遺産ガイドマップ』『米軍資料から熊本空襲を考える』くまもと戦跡ネット
『健軍飛行場』『M76焼夷弾と熊本空襲』『黒石原飛行場と奉安殿』
『菊池飛行場を活写する』『菊池の空から～原田栞さんと陸軍第二十七振武隊の軌跡～』
毎日新聞「戦争遺跡 全容把握6県のみ 失われる戦争遺跡」2019・12/8 朝刊
朝日新聞「昭和だって考古学 戦争遺跡広がる保存運動」2019・12/1 朝刊東京版
高谷和生「戦争資料館に求められるもの」2018・8/29 熊日新聞 読者ひろば・主張提言

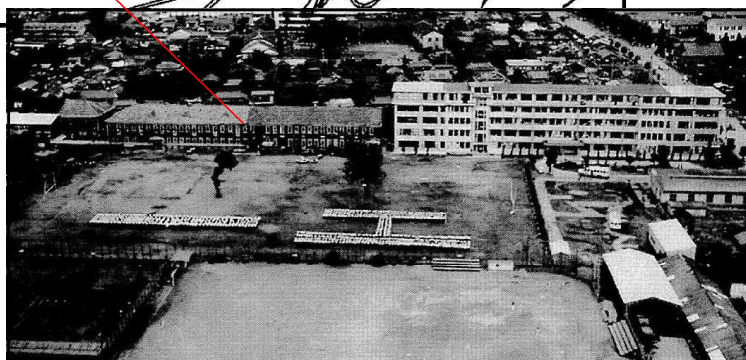
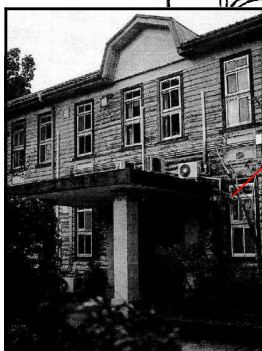
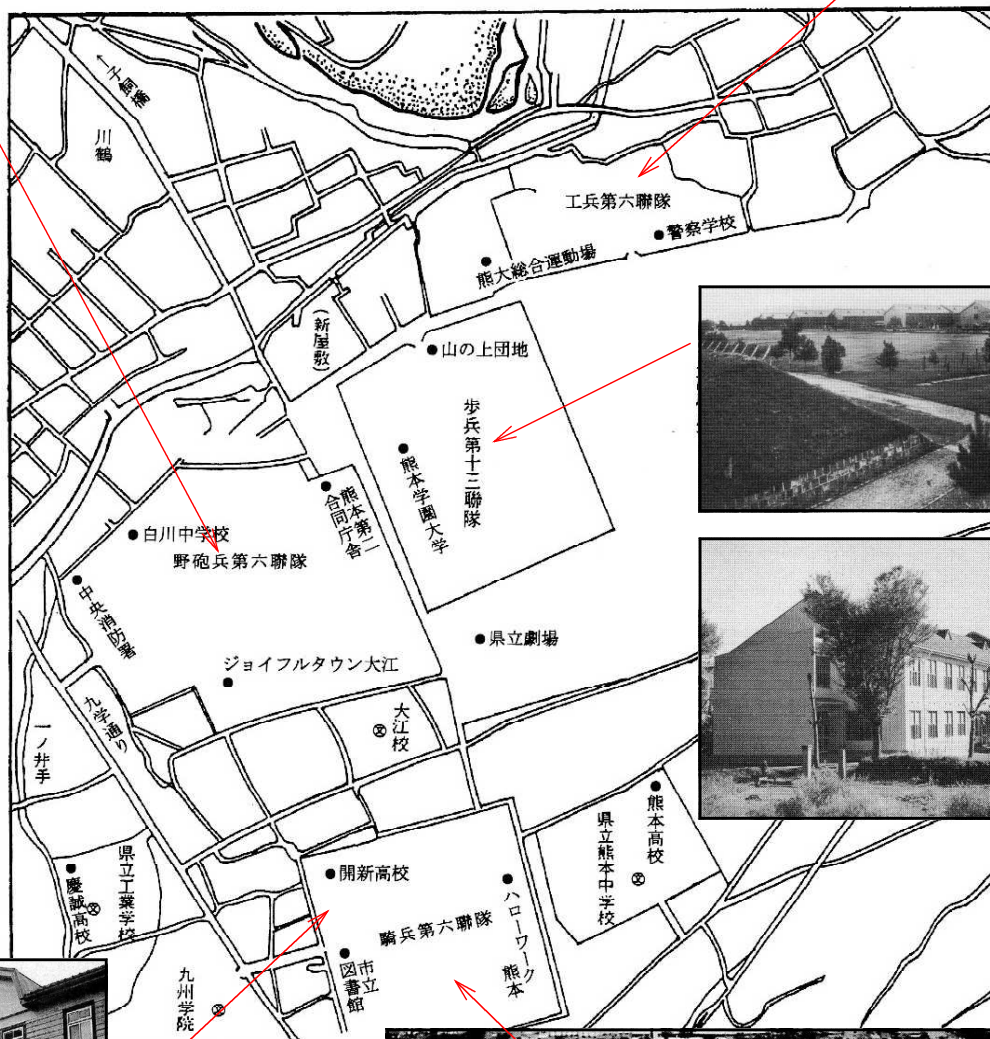
連絡先

くまもと戦争遺産・文化遺産ネットワーク代表 高谷和生
□〒865-0061 熊本県玉名市立願寺126-5
□携帯 090-1513-528
□メールアドレス takayanagi912@yahoo.co.jp
□くまもと戦跡ネットHP <https://kumamoto-senseki.net/>





大江の軍事施設付近地図（地図内の●印は、現施設名）1940年頃

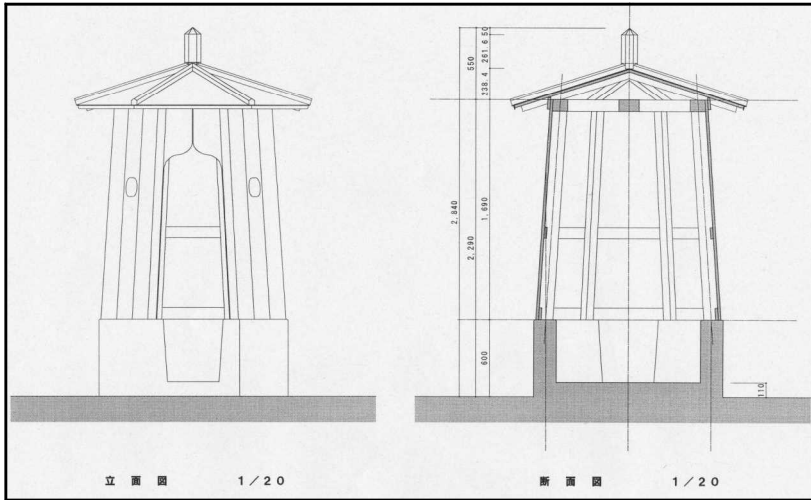


『子どもと歩く戦争遺跡 熊本編Ⅰ』

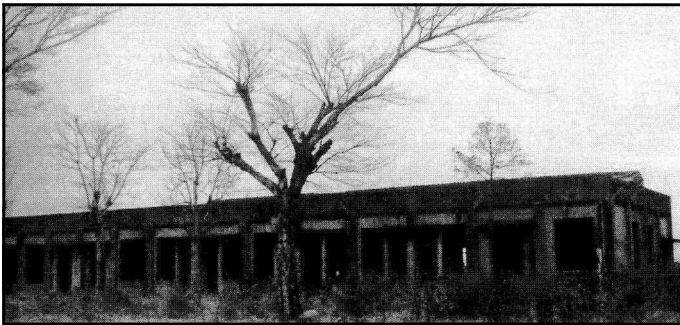
熊本の戦争遺跡研究会 2005

『戦後65年 熊本の戦争遺跡』

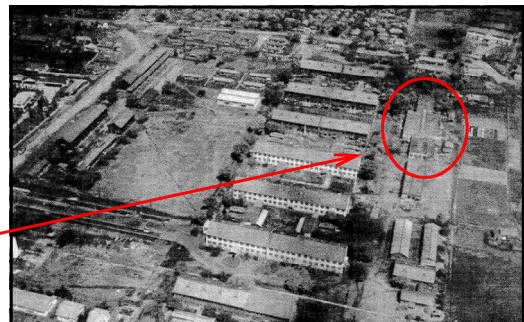
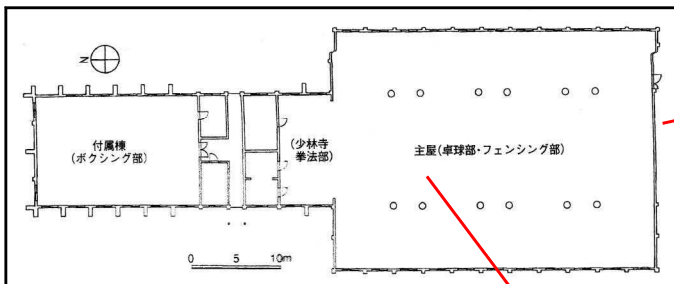
熊本の戦争遺跡研究会 2010



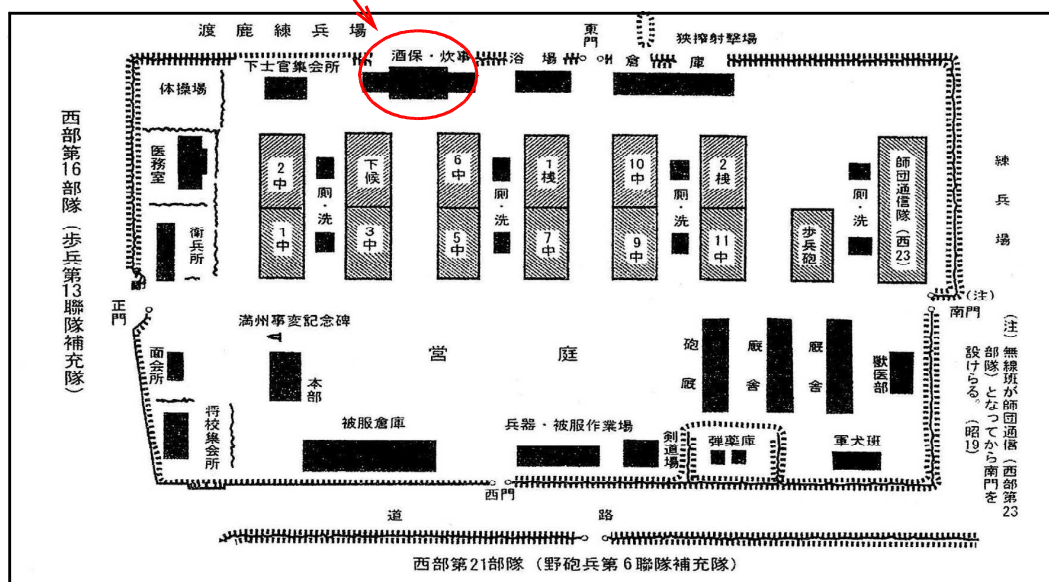
移転された「歩兵十三聯隊木造立哨所」
現陸上自衛隊北熊本駐屯地防衛館施設内に移築



歩兵十三聯隊酒保・食堂（購入時写真・平面図）



移転後に兵舎を利用した旧熊本短期大学



この聯隊は、明治三十二年熊本市山崎町に第一中隊を創設。同二十四年第二中隊を増設し、騎兵第六大隊となり、明治二十八年第三中隊を増設、明治二十九年騎兵第六聯隊の編成なり、十一月二十三日軍旗を拝受す。明治三十二年現在地に移転。昭和十二年八月北支へ出征。爾後騎兵第六聯隊補充隊となり、教育訓練に任じ、聯隊の他、所々にここで編成された騎兵第一〇六大隊・搜索第二十三聯隊・搜索第四十八聯隊・第六師団補充馬廠その他、関係部隊に精鋭を補充し、昭和十五年七月通称名を西部第十九部隊と称す。聯隊は創設以来の数々の戦役事変に出勤し、新編成部隊も共に各々その戦場に極めて悲惨な状況のもと困苦欠乏にたえて、よく騎兵の本領を発揮し赫々たる武功をたてたが、昭和二十年八月十五日大東亜戦争の終結により八月三十一日ブーゲンビル島ツルタイに於て、軍旗を奉焼し、その歴史を閉じた。ここに軍旗の栄光と数多くの戦没英霊の功績を顕彰し、聯隊の名を、永く後世に伝えるため戦友相図り、第一工業高等学校当局の御理解を得て、この碑を建立する。

昭和五十五年十一月二十三日建立

土地 熊本第一工業高等学校
※裏面には 熊本県騎六会 大分騎六会
宮崎騎六会 鹿児島騎六会
沖縄騎六会

※この碑文の句読点は編者でいれました。

熱河河北聖戦記念

昭和七年十二月十五日 出勤

従事者

聯隊長 鷺津大佐以下千二百二十七名 凱旋

戦病没者

陸軍歩兵中佐 越替貞一 陸軍歩兵伍長 森本卯次郎

少佐 上原泰行 辻本一雄

曹長 山口 繁 上等兵 西島徳男

陸軍砲兵一等銃工長 細川健吉 牛島徳男

陸軍歩兵伍長 市川泰夫 山口初男

野添 □ (不明) 松瀬義晴

吉本 保 西依 力

山内 正 欽田政孝

小山 巖 小林富雄

宮村 進 小岱六郎

田上利夫 一等兵 緒方鐵喜

左上：歩兵第十三聯隊「皇威無窮」碑の碑文

右上：騎兵第六聯隊碑の碑文

左中：「野砲兵第六聯隊之跡」碑の碑文

下：1948年10月7日撮影
の大江渡鹿地区

「野砲兵第六聯隊之跡」の碑文

明治七年熊本城内備前屋敷（現合同庁舎附近）に設けられた熊本鎮台砲隊を母隊とし同十七年砲兵第六聯隊が創立され、同二十一年に編成された第六師団の隷下に入り翌二十二年野戦砲兵第六聯隊と改称同三十二年城内から現在地に移駐同四十年野砲兵第六聯隊となり昭和二十年大東亜戦争の終結に伴い七十余年に亘る栄光ある歴史の幕を閉じた。この間、日清日露の両戦役を始めとし済南、満州、支那の各事変および大東亜戦争に出勤して赫々たる武功を樹てたのである。ここに聯隊縁りの者一同相諮り元兵營跡に碑を建て光輝ある野砲兵第六聯隊の名を永く後世に伝えるものである。

昭和五十六年三月吉日

元野砲兵第六聯隊並同関係部隊

将兵一同

歩兵13連隊の
営門跡に思う

相藤克秀 67歳 農業
(宇城市)

熊本市の大江周辺は、日本たばこ産業（J.T.）工場跡地の再開発で街の様子が大きく変わるうとしている。戦前、大江には兵営があり、現在の熊本学園大の敷地には、忠勇無双の「歩兵13連隊」が置かれていた。「じゅっさん」と呼ばれていたそう。

その営門跡付近に、保育園が新築、移転し、2人の孫が入園した。先日、孫の迎えに89歳の義母が同乗した。保育園駐車場で「これが13連隊の営門」と言つと、義母は思い出話を始めた。

「昭和19年夏あん（兄）さんば見送り来た。夜中の出発で、出征する隊の後には熊本駅までついて行った。あんさんは南島島の守備隊に行かした。髪の毛と爪が送られてきたけん、あきらめとったバツテン、やせこけて終戦

の9月生きて帰ってこした。バツテン、ほんなこて、ふの良かった」私の父は、昭和13年から5年間入営した。祖父は小遣い銭を初年兵のわが子に届けるため、熊本駅から歩いて来ていたそう。父は、昭和18年6月に連隊から選抜された3人の中の1人として近衛に転属した。それは祖父の終生の誇りであった。その思いを、今度はわが孫につなげたい。



熊日新聞社「読者の広場」平成25年投稿記事

旧歩兵十三聯隊正門。軍用道路は戦後、産業道路へ

□第六師団（だいろくしだん）は、大日本帝国陸軍の歩兵師団の一つ。

人員は約25000名、所在地は熊本-満州-北支-中支-ソロモン諸島、編成地は熊本、通称号/略称は明、補充担任は熊本師管区である。

□第六師団は、1872年（明治5年）に設置された熊本鎮台を母体に1888年（明治21年）5月14日に編成された師団であり、熊本・大分・宮崎・鹿児島九州南部出身の兵隊で編成され衛戍地を熊本とする師団である。なお1940年（昭和15年）には歩兵第47連隊（大分）を第48師団に転用し三単位編制に改編された。

□明治・大正・昭和初期、15年戦争期の端緒

1894年、日清戦争では山東半島に上陸して威海衛攻略戦に参戦し、日露戦争では当初第2軍に属し沙河会戦を戦うが、沙河会戦後第4軍に編入されたのち奉天会戦に参戦する。

1910年4月29日、師団司令部留守部を廃止。1916年6月22日、師団司令部が熊本偕行社に移転し、さらに1917年4月5日、熊本城本丸へ移転した。

1923年（大正12年）から1925年（大正14年）にかけて満州に駐屯し、帰国後、1928年（昭和3年）4月の第二次山東出兵に参加する。満州事変では1932年（昭和7年）末に動員がかかり熱河作戦に参戦、さらに中国軍を追って万里の長城まで進出する。

□大陸戦線

1937年（昭和12年）日中戦争（支那事変）が勃発すると、7月27日には支那駐屯軍隷下となり華北での作戦に従事し、10月20日には第10軍（司令官：柳川平助中将）隷下となり、第18師団・第114師団とともに杭州湾に上陸し中国軍の背後からの攻撃にあたり、続いて南京攻略戦に参戦する。

1938年（昭和13年）2月14日に中支那派遣軍隷下となり徐州会戦を、同年7月4日には第11軍隷下となり武漢作戦を戦う。この間の昭和13年（1938年）5月15日には、留守第六師団の担当で第106師団が編成され、同じく第11軍隷下で武漢作戦に参戦し、第六師団は漢口一番乗りを果たし10月26日に占領する。

□太平洋戦線

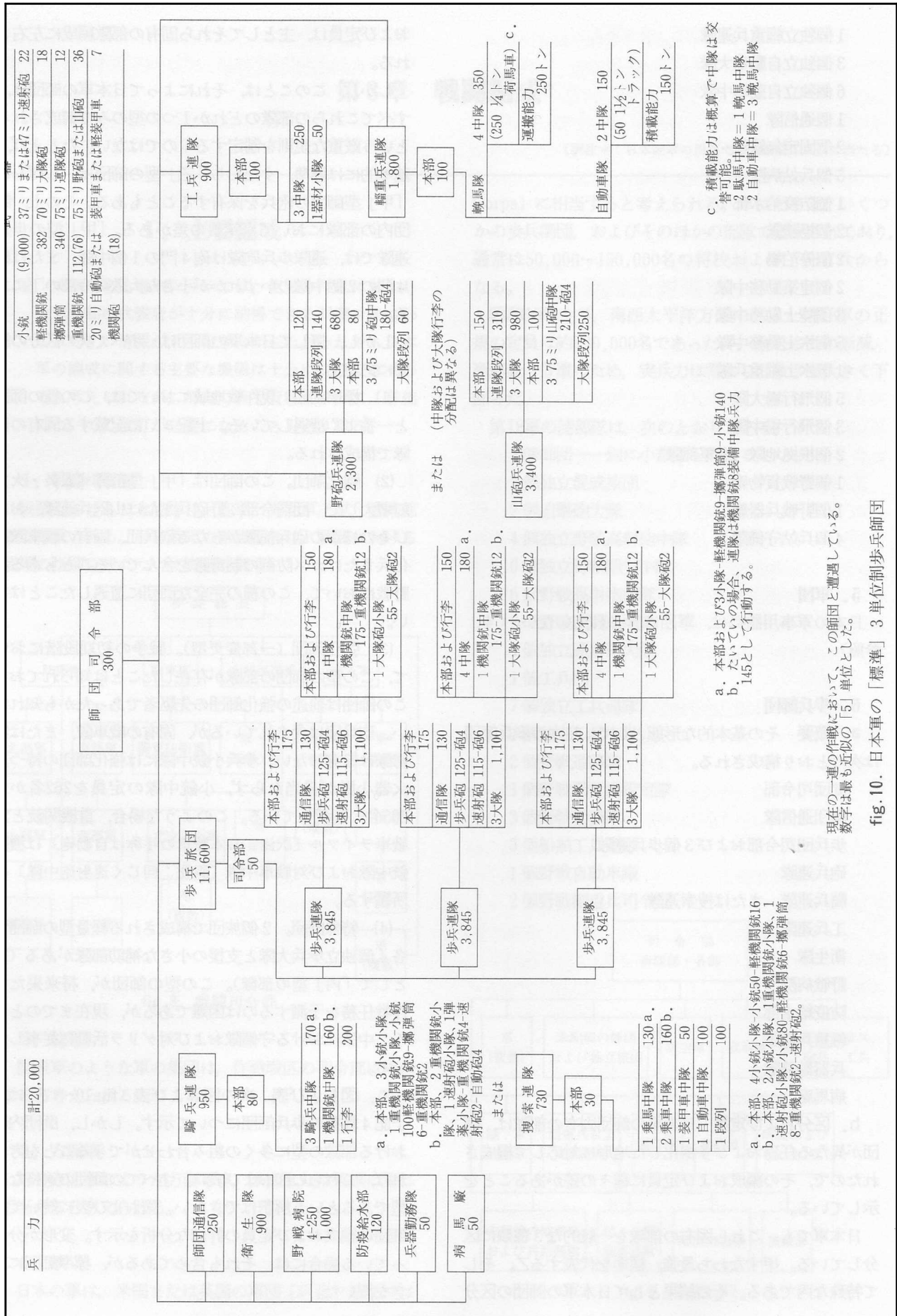
太平洋戦争開戦後、1942年（昭和17年）11月にソロモン諸島方面の作戦担当の第17軍に編入される。当初はガダルカナル島に派遣される予定であったが、大本営はガダルカナル島からの撤退を決定、師団は1943年（昭和18年）初頭にソロモン諸島のブーゲンビル島（Bougainville）南部に進出する。同年11月、タロキナ地区に連合軍が上陸し飛行場を建設したため、第6師団を主力とした第17軍は飛行場奪還を試みるが、1944年（昭和19年）3月の反攻（第2次タロキナ作戦）を最後に組織的軍事力を失う。

その後、主戦場がサイパンからレイテ島へと移り、アメリカ軍主力の連合軍は積極的攻勢には出なかったもののソロモン諸島の日本軍は兵站を絶たれ、長く兵器弾薬が欠乏し飢餓と疫病に苦しむ。第2次タロキナ作戦後の歩兵連隊は4,923名（外、戦傷1,787名）、終戦時には1,654名になったという。1944年（昭和19年）11月に主力がオーストラリア軍に代わった連合軍は攻勢に転じ、日本軍主力のこもるブイ（Buin）地区に迫ったが、壊滅寸前に1945年（昭和20年）8月15日の終戦を迎えた。同年9月にオーストラリア軍タロキナ基地で降伏文書に調印、南部沖合いのファウロ島（Fauro）に収容される。

□最終所属部隊

歩兵第十三連隊（熊本） 歩兵第二十三連隊（都城） 歩兵第四十五連隊（鹿児島）
野砲兵第六連隊 騎兵第六連隊 工兵第六連隊 輜重兵第六連隊
第6師団通信隊 第6師団兵器勤務隊 第6師団衛生隊 第6師団第1野戦病院
第6師団第2野戦病院 第6師団第4野戦病院 第6師団病馬廠 第6師団架橋材料隊

高谷各文献より抜粋して整理



現在の一連の作戦において、この師団と遭遇している。
数字は最も近似の「5」単位とした。

fig.10. 日本軍の「標準」3単位制歩兵師団